

## 10. 自然現象

### 10-1. 季節・一日の区分

#### 10-1-1. 季節

春をパイカラ paykar、夏をサク sak、秋をツク cuk、冬をマタ mataという。

夏の神様とか冬の神様とかは聞いた事がない。

#### 10-1-2. 月の名

暦を昔の人はどうして知ったものかわからない。月の名前を聞いたがあまり覚えていない。

6月だろうか、日が長くなる月をトエタンネ toetanneと言う。

9月頃ヒエ・アワを取る（イチャルポク icarpok）月をハプラブ haprapと言う。ヒエ・アワを取る時にイチャピパ icapipaという川貝を使った。（沼貝をトーピパ topipaという）どの月か判らないが松明（スネ sune）で魚を取るスナンツブ sunancupという月がある。

### 10-2. 気象・天候

#### 10-2-1. 寒さに関する表現

テケ ペテツネ teke petetne。手がかじけた

メアン フミ me'an humi 寒いようだ

ク メライケ フミ ku merayke humi 寒いなあ

タント シリ メمام フミ アン tanto sir memam humi an 今日は涼しいなあ

タント ナムレラ アシ クス クルプペ カ トウナシヌ ネ フマシ tanto namrera as kusu kuruppe ka tunasnu ne humas 今日は冷たい風が吹いているので霜が早くなるようだ

オクラン タシコロ アン フミ okuran taskor an humi 夕べはひどく寒かったなあ

シン ルプシ sin rupus しばれる

ク メライケ ワ ク ルプシ アンキ フマシ ku merayke wa ku rupus anki humas 寒くてしばれてしまいそうだ

タシコロ ルプケ (アン) ワ ク ルプシ アンキ フマシ (ク ルプシ ノィネ ク ヤィヌ) taskor rupke (an) wa ku rupus anki humas (ku rupus noyne ku yaynu) 寒くてしばれそうだ

メアン ナ。ソモ エメライケ me'an na. somo emerayke 寒いなあ、おまえ寒くないか

チュク アフン コ メアン cuk ahun ko me'an 秋になると寒い。

#### 10-2-2. 暑さに関する表現

シリ セセク sir sesek 暑いなあ。ク セセク クヤイウエンヌカラ ワ アペ ウシカ ワ  
エンコレ ku sesek ku yaywennukar wa ape uska wa enkore 暑くてたまらないから火を  
消してくれ

### 10-2-3. 台風

台風をポロ レラ poro réraと言う。台風が来たときにするまじないがある。臼(ニス nisu)に綱を縛り、梁(ウマムキ umamki)から下げる。「臼の女神よ、我々をお助けください」(ニス カッケマツ nisu katkemat (あるいはニス フチ nisu húci) ウンカ オピウキ unka opiwki)と唱える。女の方は鎌を持って外に出て風に向かって鎌を振り回す。これは、風を切り風と意地較べをするのである。風を切るときの文句は忘れた。

### 10-2-4. 風

風が吹く事をレラ アシ réra asと言ひ、風が強い事をレラ ルイ réra ruyとかレラ ユ  
プケ réra yupkeと言う。ナム レラ ルイ nam réra ruy 冷たい風が強く吹く。ナム レラ  
アスミ クルプペ カ タネ アン ノイネ フマシ nam réra as humi kuruppe ka tane  
an noyne humas 冷たい風が吹いているようなので霜が降りるかも知れない。(参照。ワクカ ナ  
ムミ wakka nam humi 水が冷たい。ク ケマ (テケ)ナムミ ku kema (teke) nam humi  
手足が冷たい)

メナシ menas ヤマセ(山から、東の方から吹き下ろす風で生ぬるい風である。メナシ ルイ  
menas ruyすると天気が変わり、雨が降ると言われていた。

オコイポクン okoypokun 西から吹く風で浜の人はこの風が吹くと舟を出さなかった。

エコイポクン ekoypokun 西の海の方、すなわち苫小牧方面へ吹く風

オコイカウン okoykaun 新冠方面から吹く風

エコイカウン ekoykaun 新冠方面へ吹く風

風の神のことを歌った歌を、今生きていれば、百歳以上にもなるイコスブ ikosupという婆さんに教えてもらった(11-4 参照)。

### 10-2-5. 雲

雲をニシクル niskurと言う。白い雲をレタラ ニシクル retar niskur、黒い雲をクンネ ニ  
シクル kunne niskur、一番黒い雲をトイウエン ニシクル toywen niskurと言う。

空をニシコトロ niskotoroと言う。カムイ ニシコトロ kamuy niskotoroとは、カムイモ  
シル kamuy mosir (神の国)の事である。

### 10-2-6. 霧・雨・雪

霧をウラル úrarと言う。ウラル アン ルエ úrar an rue 霧がでているよ。物語(ウエ  
ペケレ uepeker)のイクレスイエ Ikuresuye (人名)の言葉につぎのような表現がある。「霧  
も何もない時に、私は外に出たところ、霧で道に迷って、どこを歩いているのか、わからなくな  
って、チュブポククシベツという川に出た。」

ウラル カ ネブ カ イサムノ ソイネ アナブ

úrar ka nep ka isamno soyne anap

ウラル シットウライノ アナ エカリ

úrar sitturayno an a ekari

アブカシ アン ケラムペテク コル

apkas an kerampetek kor

アルパン ア イネ チュブポク クシ ペッ オロタ ラナン

arpa an a ine cuppok kus pet orota ranan

ルヤンベ ruyanpeとは、雪と雨の両方を表す言葉である。豪雨をアプト ルヤンベ シリ ウエン ルイ apto ruyanpe sir wen ruy、豪雪をウパシ ルヤンベ シリ ウエン ルイ upas ruyanpe sir wen ruy、雪や雨に悪口を言うとき、魔物みたいに、ウエンルヤンベ wen ruyanpe と言う。

雨をアプト aptoという。(例文：雨が降る アプト アシ apto as。大雨が降る ポロ アプト アシ poro apto as。)

みぞれは、ペソシ pesos。(例文：みぞれが降って来た ペソシ アシ ク ワ エク pesos as ku wa ek

雪 ウパシ upas。(例文：ウパシ アシ upas as 雪が降る。大雪が降る ポロ ウパシ アシ poro upas as)。

ふぶき(地面に積もった雪が飛ぶ事)ウブン upun。(例文：ふぶきになるウブン パッチェ upun patce。吹雪で雪が渦巻くようになる ウブン パッチェ ウエヌブン パナ トウコポイエポイエ upun patce wen upun pana tukopoyepoye。地吹雪になってひどく天気が悪い、見る事もできない。ウブン パッチェ、シリウエンルイ インカラ カ エアイカブ upun patce, sirwenruy inkar ka eaykap。)

雪で死んだ人はいないが、吹雪では人が死ぬことがあるので吹雪になる(ウブン パッチェ)と恐ろしかった。

大雨でも大雪でも天気が悪いと、雨・雪の神(ルヤンベカムイ ruyanpekamuy) 助けてくれと頼む。

物語の中に、天から降った火の雨(アペ ラヨチ ape rayoci)と氷の雨(コンル ラヨチ konru rayoci)でサマユンクル samayunkurの村(コタン kotan)が全滅した話しがある。

雹(ひょう)は、カウカウ kawkawと言う。雹が降りる事をユーカラ yukarでは、つぎのように表現する。

カムイ マウエ エトク 神風の行く手に

kamuy mawe etok

ヌムヌム カウカウ 大粒の雹

numnum kawkaw

ヌムヌム アプト チエチャルカ 大粒の雨が降った

numnum apto ciecarka

タパン カムイ マウ この神風の

tapan kamuy maw

エク フム コン ナ 来る音は

ek hum kon na

コトソサッキ ウアルキ フム ゴーゴーとなる

kotososatki uarki hum

ノカン シリ カ ウシ ペ 小さな草木

nokan sir ka us pe

ルプネ ヒーケ ペウレ ヒーケ 老いも若きも

rupne h́ike pewre h́ike

シンリッ カ ワ 根こそぎ

sinrit ka wa

コメシパメシパ 引き抜き

komespamespa

チサマソネ ク カル ワ エク 倒しながら来た

cisamasone ku kar wa ek

#### 10-2-7. 雷

雷をカムイ フム kamuy humという。男の神であろうか。カンナ カムイ kanna kamuyとも言う。家の外にいる時、雷が来ると(カムイ フマシ kamuy hum as)、「雨が降る降る(アプト アシ apto as)」と言って急いで家に戻る。だから、子供の時に、畑にいて雷がなった時すぐに家に帰れるので喜んでいて。家の中にいる時に、雷がなると、女の方は、はちまきはずし、左手で右手を上から握り、頭を下げて畏れ慎む(オリパク oripak)。刃物を使ってはいけなと言って、床の隅(ソー ウスツ so usut)に隠した。

雷が落ちることを、カンナ カムイ オニシポソ ノィネ フミ アン(フマシ) kanna kamuy onisposo noyne humi an (hum as) という。(オニシポソは、天から落ちる事)。

稲光は、イメル imeruと言ひ、稲光がすることをイメル アッ imeru atと言う。

#### 10-2-8. 虹

虹をラヨチ rayociと言う。昔、女は嫁に行く前に母から下帯(ポン クツ pon kut)を作ってもらいそれを着けて嫁に行くのが習慣であった。ラヨチと言う娘は親の言う事を聞かず、いろいろな色の絹(サラムベ sarampe)でポン クツを編んだ。これを聞いた神が怒り、懲らしめようと(アパカシヌ apakasnu)、虹にしてしまった。だから、虹の事をラヨチと呼ぶようになったのだ。天気がいいのに雨が降るとラヨチがかなしくて泣いて(チシ cis) いるんだといわれていた。

### 10-2-9. 地震

地震をシリシモイエ *sirsimoye*と言う。和人(シサム *sisam*)は、まじないの言葉を言うのに私達は何も言わない、臼の神(ニス フチ *nisu huci*)でもぶらさげたのだろうか。

### 10-2-10. 洪水と山津波

洪水をオキムンベ *okimunpe*と言う。シリ ポプケ ネ クス コンル ウスラ イネ オキムンベ アン *sir popke ne kusu konru usura ine okimunpe an*「夏に暑くなると氷が融けて大水になる」

大水が出て畑が荒れてしまってヒエもアワもトウキビも何もとれない事があった。私が生まれてから、大水で作物がとれない事が二回あった。

春の大水は、パイカラ オキムンベ *paykar okimunpe*というのではないか。(11-3参照)春になると外で地面がドーンと音をたてて割れたような音をする。これをトイ プシ コル オカ *toy pus kor oka*と言う。

山津波をオレブンベ *orepunpe*と言う。海から来ても山を越えて来ても(エクシコンナ *ekuskonna*)オレブンベと言う。父は若い人達に山では低いところに決して泊まるものではないとよく言っていた。昔、山津波があった時にオチルシの上に(オチルシ カ タ *ocirusi ka ta*)逃げたものだけが助かった。それで、小さい時からオチルシの神に祈るように(オチルシ カムイ ノミ ヤン *ocirusi kamuy nomi yan*)言われていた。

### 10-2-11. 川の流水

ペツ ルプシ、エクスン カルパ ルスイ コルカ オロ オシマ *pet rupus, ekusun karparusuy korka oro osma* 川が凍ったので、渡って行きたいのだがぬかって(水に入って)しまう。柳(スス *susu*)の枝などで仮橋(コンル ルイカ *konru ruyka*)を作ると、パサパサした氷(モムペ *mompe*)が流れて来て橋ができる。

シリ ポプケ イネ(シリ ポプケブ ネ クス)コンル オピッタ ウスラ ワ モム コル オカ *sir popke ine (sir popkep ne kusu) konru opitta usura wa mom kor oka* 暑いので氷が皆離れて流されてしまう。

## 10-3. 天体

### 10-3-1. 太陽と月について

お日さん、お月さんが隠れる(日蝕、月蝕)と、ほうき草(ムンヌイエブキナ *munnuyepkina*)で作ったほうきを持って、樽に入った水にほうきを浸し、チュプカムイ エライ ナ ヤイテムカ ウォーイ ウォーイ *cup kamuy e ray na, yaytemka woy woy*「日の神、月の神、死ぬぞ、生き返れ」と叫んで天に向かって水をかける。心臓を冷やして生き返ってくれという訳で、皆で大騒ぎしてやったものだ。きれいな水をかけないといけないものだ。何か物を打ち鳴らすということはなかった。

### 10-3-2. 星について

神窓 (ロルンプヤラ *rorunpuyar*) は東に向いており、そこから、朝、しののめの光が見える (ニサツマウ リキン *nisatmaw rikin*)。その太陽のそばで光る星がある。その星をニサツサウォツ *nisatsawot* という。このニサツサウォツカムイ *nisatsawotkamuy* を見たら、災難がないようにと、年寄りはお祈りをしていたそうだ。母親は自分でお祈りはしないが、そのやり方を教えてくれた。エトゥフ カラ *etuhu kar* といって、人差し指で鼻の下を左から右へこする。この動作は、男が酒を飲んだ残りを女にやった時、女が杯 (トゥキ *tuki*) をとってオンカミ *onkami* してする動作と同じである。

このニサツサウォツに拝むと幸せになるという。母親は、女が朝早く起き川へ行き顔や手を洗い、口をゆすいで、川上にも川下にも手を合わせて拝んで、幸せにしてくださいと言って拝むとよい、と言っていた。私は子供がなかなかできなかったので母の言うとおりに、人に会わないように隠れて朝早く、額平川に行って、水の神 (ワクカウシカムイ *wakkauskamuy*) に頼んで拝んでいた。

#### 10-4. 地理

##### 10-4-1. コタンと近隣の概況

荷負本村 (ニオイ コタン *nioy kotan*) は、元は額平川の向かい岸の現在のニオイ沢あたりにあった。そこをフシコ コタン *husko kotan* と呼んでいた。そこから現在の荷負本村のある高台 (ニウシケ *niouske*) の下に移った。その後、現在の高台に移った。昔は、50軒ほどの家があった。荷負本村には、木村という姓が多い。西島氏も旧姓は木村である。

貫気別 (ヌブキペツウンコタン *nupkipet un kotan*) は、20軒ほどの家があった。

シケレベ *sikerpe* (現在のスケレベ) コタンは小さなコタンであった。アスパキ *asupaki*、ポン アスパキ *pon asupaki* 沢の上部にあたる。

ポロサルコタン *porosar kotan* には2、3軒の家があった。

##### 10-4-2. 地形名称

普段は、額平川の事を単にペツ *pet* と言っていた。祭壇 (ヌサ *nusa*) で行うお祈り (カムイノミ *kamuynomi*) の時には、川の流れの静かなところをワクカウシカムイ *wakkauskamuy*、波の荒いボンボンと波立つ (カンチウカシ ロシキ カネ *kanciwkasi rosiki kane*) ところをチワシコルカムイ *ciwaskorkamuy* と称える。

小さな沢はカムイノミしないが、コタンに近い水を汲んだり利用する沢はナイコルカムイ *naykorkamuy* といって、カムイノミする。男がするのがあたりまえだが、現在は、する男の人もいないので自分がしている。この川にキッチ *kitci* (この容器に雨を溜めて洗濯に使う) みたい丸太を縦に掘り込んだパツタリ *pattari* (鹿おどしのようなもの) でヒエやアワを搗いて (イウタ *iuta*)、糠を落としては (トゥイエトウイエ *tuyetuye*)、またイウタした。パツタリは、父が作った。

川の岸 (段差のない) ウッキタイ utkitay

川の岸 (段差のある) ペットシカ pettoska

河原 ピタラ pitar

浅瀬 シリ オハク sir ohak

深いなあ シリ オッオホ フミ sir o'oho humi

深いから危ないぞ シリ オッオホ イヤイキプテ sir o'oho iyaykipte

川をこいで渡る ペッカスイ petkasuy (例文: ク ペッカスイ ワ エクスン カルパ ku petkasuy wa ekusun karpa 「川をこいで向こう岸へ行く」。クペッカスイ ワ オクスン ケク ku petksuy wa okusun kek 「川をこいで向こう岸から来る」)

川に細い枝を敷き水で凍らした橋をコンル ルイカ koru ruykaとかチャー ルイカ ca ruykaという。荷負コタンから貫気別コタンへの近道 (イカ ika) はコタンパ kotanpa (荷負コタン内の額平川上流の方) のすぐ下の方にあった。

狭くて波の荒いところ ウッカ utka

深くて渦巻いているところ モイ moyとかハツタル hattar。

川の曲がり ペツ レウケ pet rewke

沢の口 ナィプトゥ ペトルン ラッキ コル アン nay putu pet or un ratki kor an (沢の口が川に入り込んでいる)

大きな石 ポロ スマ poro suma

小さな石 ポン スマ pon suma

砂利 ピーオタ piota (例文: サツ ピーオタ セセク フミ sat piota sesek humi 「乾いた砂利の上を歩くと熱いな」)

砂 オタ ota

柳原 ススタイ susutay。柳はイナウに用いる。また、遊びとして、先をエエンケ eenke (尖らす)して、頭を平らにしてカククイ kakkuyを父が作ってくれた。釘さしのようにして、相手のカククイを倒すと勝つ。

木原 ケナシ kenas。こういう場所には家を作らない。ケナシウナルベ kenas unarpe(木原のばあさん)が住んでいると言われる。木はどこに生えていてもシリコルカムイ sirkorkamuyである。

高台をヌブ nupという。奥の山の稜線の低いところをキヌブ kinupという。

山のひら (斜面) をフルコトロ hurkotoroという。

一番高い山をポロ ヌプリ poro nupuriとかポロ シリ porosirという。

川の上流をペツ エトコ pet etoko(たとえば、貫気別川の上流をヌブキペツ エトコ nupki pet etokoという。)

山の尾根の分岐点 (シトゥ situ) は、良い神 (ピリカ カムイ pirka kamuy) も悪い神 (ウエン カムイ wen kamuy) も歩くから分岐点の落ち口 (シトゥ ケシ situ kes) には泊ま

るものではないと言われていた。

### 10-4-3. 方向を表す表現

ヘペラ hepera 川上へ

例文：ヘペラ カルパ hepera karpa 川上へ行く

ヘペラ カルパ ワ ケク hepera karpa wa kek 川上へ行って来た

ホペラ hopera 川上から

例文：ホペラ クサン hopera kusan 川上から (下って) 来た

ヘパシ hepasi 川下へ

例文：ヘパシ カルパ hepasi karpa=ヘパシ クサン hepasi kusan 川下へいく

ホパシ hopasi 川下から

例文：ホパシ ケク hopasi kek 川下から来た

トゥラシ turas 川伝いに川上へ

例文：ペツ トゥラシ カルパ pet turas karpa 川伝いにのぼった

ペシ pes 川伝いに川下へ

例文：ペツ ペシ クサン pet pes kusan 川伝いに下った

ヘラシ herasi 川へ

例文：ヘラシ クラン herasi kuran 川へ下る

ペトルン クラン petorun kuran 川へ下る

コタンケシ クラン kotankes kuran 村はずれへ行った(荷負本村ではコタケシ(村はずれ)は、コタンから、額平川へ下るときの通路にある。したがって、川へ降りていったことになる。コタンパ kotanpaは西島テル氏の家の付近、すなわち額平川の上流の方である。)

ホラシ horasi 川から

例文：ホラシ ケク horasi kek 川から来た

コタンケシ ワ ケク kotankes wa kek 村はずれから来た

ホラシ ケク ルエ ウン horasi kek rue un 川から来たよ

コタン オルン クヘメス kotan orun kuhemesu 川からコタンへ行くため坂を上  
がった。

エクスン ekusun 向こう岸へ

オクスン okusun 向こう岸から

例文：クペッカスイ ワ オクスン ケク kupetkasuy wa okusun kek 川をこいで(渡渉する)向こう岸から来た

ヘマカシ hemakasi 川から離れて

例文：ヘマカシ カルパ hemakasi karpa 川からコタンの方へ行った。

ホマカシ homakasi 川へ近づいて

例文：ホマカシ クラン homakasi kuran 川の方へ降りて行く

エピスン episun 浜へ

例文：エピスン クサン ワ ケク episun kusan wa kek 浜へ行って来た

ピシ タ(アトゥィ オッタ)スム クホク ワ クサン pis ta(atuy otta)sum kuhok  
wa ku san 浜へ油を買いに行った

オピスン opisun 浜から

例文：オピスン ケク opisun kek 浜から来た

ヘレパシ herepasi 陸から海へ

ホレパシ horepasi 海から陸へ

例文：チプタ シサム ホレパシ アリキ cipta sisam horepasi arki 船大工が海からや  
ってきた

サン san 川下へ下る

例文：ニプタニ タ クサン ワ ケク ルエ ウン niputani ta kusan wa kek rue un  
二風谷へ行って来たよ

アルパ arpa 行く

例文：フレナイ タ カルパ ワ ケク ルエ ウン hurenay ta karpa wa kek rue un  
振内へ行って来たよ

エク ek 来る

例文：キパルパル クホク ワ ケク kiparpar kuhok wa kek てんぐさを買って来た

#### 10-4-4. 地理・地名

1～10までは、荷負本村を出て、額平川を川下から川上に向かっていく。(地図1参照)

1. トウクシシオツナイ tukusis'otnay アメマスがあがったのでこの名がついた。昔、川の  
先に沼があったが、現在は水田になっている。

2. ユケトンナイ yuketonnay (yuk e toy nay) 昔、青い土があって、そのねばねばした土  
を鹿が食べるのでこの名が付いた。

3. キタルシナイ kitarusnay 意味未詳(何か固い木の皮を意味するのか)。この沢の向こう  
岸に円墳のような丸い山は、チャシコツ caskot (本節12番 参照)で、城の跡だといわれて  
いる。

4. タユシナイ tayusnay 意味未詳

5. タユシナイ タブコピヒ tayusnay tapkopihi 現在の山名は、三角山。荷負本村でもナナ  
ハン(ヌブキベツウンコタン nupki pet un kotan)でも、この山にカムイノミ kamuy nomi  
(祈り)をする。その山のふもとには昔は、ユ(温泉)があった。自分がヒゼンともいうカサ  
マヤイケ kasa mayayke (皮膚病)になったとき、ハポ hapo (母)と一緒に温泉に行き一  
週間通い、治した。島野かへいという人がその温泉を整備した時、和人なのに、アイヌに頼ん  
で、チホルカケブ cihorkakep (イナウ inawの一種)を作ってカムイノミをしてもらった。  
この、チホルカケブは、普通のイナウとは逆に、木の先の方から削る。

6. スブン *supun*の沢(現在は、シブンの沢)アカハラがたくさん入ったのでこの名が付いた。昔から、橋がかかっていた。

7. トナイエ *tonaye* (現在の地図上の名前は、トエナイ) 山の奥の方に沼があったのでこの名がついた。

8. モセウシペツ *moseuspēt* モセ *mose* は、ヨシガヤのこと。この沢で近くのどのコタンでもカヤを刈っていた。屋根に使うカヤは、スプキ *supki*という。

9. マカウシペツ *makauspēt* 小さい川である。

10. オソウシ *osousi* 額平川への落ち口に滝のある川。この川の向こう岸にルッケブ *rutkep* (すべる、崖崩れのようになっている) と言い、その下で畑を作っていた。

11. 額平川は、別名をトミサンペツ *tomisanpēt*、シシリムカ *sisirmuka*といい、その川のどこかにシヌタブカ *sinutapka*というところがあり、そこでユーカル *yúkar*にでてくるポイヤウンベ *poy yaunpe*はおがった(育った)といわれている。荷負本村の人々の間では、沙流川には、あんなに大きな川なのに名前がなかった。額平川と沙流川本流との出会いをペツ エカリ *pēt ekari*という。ヌキベツ川が額平川と出合うところをヌキベツトッフ *nukipēt putuhu*という。

この辺で一番大きな山は、ポロシリ *porosir*で、家にあるヌサ *nusa*で必ずカムィノミした。父親は、そのポロシリに測量に行き、重い石を背負って頂上までのぼったそうだ。

12. ペクンチ (*pekunci*人名) のチャシコツ *caskot*。この丸い昔、ペクンチという人がここに砦を築いて、戦争をしたという話がある。荷負本村のコタンパ (川上の方) から対岸に見える丸い山。

13. アブシ *apus* 川の背後にある山の上に昔々コタンがあったという。マスがのぼった。

14. ルッケブ *rutkep* このふもとで畑を作っていた。畑のそばにトィタ チセ *toyta cise*をつくった。

15. イペペシナイ *ipepesnay*～イペツペシナイ *ipetpesnay* ヌキベツコタンのすぐそばを流れる川で、ヌキベツ川と並行に走っている。父から聞いた話によると、熊がこの川づたいに降りてきたのでこの名がついた。

昔、飢饉 (*kem'an*) があった。カラスの一羽も、カケスの一羽もいなくなった。  
(7-2 参照)

16. エサンピラ *esanpira* ヌキベツ川の口よりすぐ近くの岩が突きでたようになっている崖。チノミシリ *cinomisir* (祈る対象となる山) のひとつで、ヌキベツ コタンの人達のイナウチバ *inawcipa* (祭場) がある。

17. セタナイ *setanay* コタンより上流のヌキベツ川支流。パンケ セタナイ *panke setanay* は大きな沢である。

18. オチルシ *ocirusi*～オチリシ *ociris* 荷負本村、ヌキベツの人達がカムィノミするチノミシリ *cinomisir*である。

(西島氏の弟の奥さんの病気の回復を感謝する祈りを捧げに、調査者がオチルシに同行した。) 杯(トゥキ tuki)とお酒、ヒエ、イナキビ、タバコを持って行ったトゥキに二回に分けて注いだ酒を酒箸で5回ふりまく。

「尊い神様、私の父達は頭を垂れながら、祈りを捧げたものでしたが、私は祈りを捧げた事もないのです。私の弟の妻が病気になった時、私が(オチルシに)祈ったので(全快したので御礼に来るべきところですが、今まで来れませんでしたので)、恐れ慎んでおりましたところ、和人の若者、良い若者たちが、心根が良くやってきてくれました。(そのおかげで)ここに来て祈っているのです。何と尊い事でしょう。私は貧しい年をとった女でお祈りを捧げますが、このトゥキを受け取ってください。」

シパセ カムィ ク コロ ミチ ウトラ ヤィコムイェ コロ ノミ ロク ペ アノミ カ  
エラミシカリ オラ カキヒ マチヒ タスム イ タ ク カムィノミ イ タ(約一秒間不  
明)ケオリパカプ、シサム オクカイポ ピリカ オクカイポ ウトラ ケウトウム ピリカプ  
ネ クス アリキ ワ ケク ワ ク カムィノミ ナ。カムィ パセ シリ、ウェン ルブネ  
マツ ク ネ ワ ク ハウキ ヤクカ タン トウキ 受け取ってください。 sîpase kamuy  
ku kor mici utar yaykomuye kor nomi rok pe a nomi ka eramiskari ora kakihi macihi  
tasum i ta ku kamuynomi i ta . . . . koripakap, sisam okkaypo pirka okkaypo utar  
kewtumu pirkap ne kusu arki wa k ek wa ku kamuynomi na. kamuy pase sir, wen rupne  
mat ku ne wa ku hawki yakka tan tuki uketotte kudasai.

この時、調査者にオチルシに酒を捧げ、首筋にパスイで酒を垂らすように指示し、祈りを続ける。

「私が(ここに来ると言う若者は)酒も焼酎も持ってやってきて自ら酒を捧げたのだから、尊い神よ、私の若者達を見守って何事もないように、静かにアイヌの言葉をたくさんわかって帰って行けるように取り計らってください。良い若者ばかりが私についてきたのです。尊い神様、私の若者達の心を汲んで、何事もないように守り神とともに帰られますように取り計らってください。無事に行きなさい。ケク ワ サケカ ソーチュ カ コロ ワ アリキパ ワ ヤ  
ィカタ チャルパ シンネ クス シパセ カムィ ク コロ オクカイポ ウトラ セレマク  
カシ エプンキネ ワ エペッチウ サクノ アプンノ アイヌ ヤィイタク ポロンノ エラ  
ムオカ ワ パイエ クニ カムィ サンニヨ アン ナンコン ナ。ピリーカ オクカイポ パ  
テク エン トウラ ワ アリキ ルウェ ネ ナ。ア ノミ カムィ ク コロ オクカイポ  
ウトラ ケウトウム カシ ピリカノ カラ ワ エペッチウ サクノ ヘコテ カムィ コホ  
シブパ クニ カムィ サンニヨ ワ アン ナンコン ナ。アプンノ パヨカ。 k ek wa  
sake ka sociw ka kor wa arkipa wa yaykata carpa sinne kusu sîpase kamuy ku kor  
okkaypo utar sermakkasi epunkine wa epetciw sakno apunno aynu yayitak poronno eram'  
oka wa paye kuni kamuy sanniyō an nankon na. pirka okkaypo utar kewtumu kasi  
pirkano kar wa epetciw sakno hekote kamuy kohosippa kuni kamuy sanniyō wa nankon

na. apunno payoka.

19. チカシットク cikasittokヌキベツ川が現在の貫気別市街に出るところの右岸にある小高い山の名。

20. 荷負本村に上る川下の坂のそばに、シンケブ ウシ ポン ナイ sinkep us ponnayという沢があった。シンケブとはハギのことだ。

〔荷負本村 西島テル氏〕

21. ピルカポンナイ pirka pon nay ヌキベツコタンの墓場の近くの沢。

22. カムイクンナイ kamuy kun nay 墓場の向こうの沢。

〔ヌキベツ 黒川節子氏〕